

2020年8月19日

Version 1.5

統計数理研究所共同研究会 2020年度第1回世界メッシュコード研究会

開催要旨

世界メッシュコードおよび世界メッシュ統計を用いた応用、利活用法の開発、関連分野紹介、応用と利活用事例の発掘とそれにかかわる議論を行うために研究集会を開催する。メッシュ統計作成を可能とする位置情報付き源データ、メッシュ統計データプロダクトの紹介、メッシュ統計を他データとともに利用した利活用事例、メッシュ統計の品質評価方法、データ分析方法を取り扱う。その他、現在はメッシュ統計やデータ利活用とは直接的に関係していないが利活用に関心を持つ現場におけるニーズを広く集めるため、企業や行政における活動紹介の発表も想定する。更に、主たる講演をインプットとしてデザインワークショップを後半に併催することにより、発表を行わない参加者も同様に世界メッシュ統計に対する知見を深められるように配慮し、聴講以外のインタラクティブな手段により世界メッシュ統計に関する学習を可能とする機会とネットワーキングの場を提供する。

開催日：2020年8月18日（火）9:00～12:00、

2020年8月24日（月）13:00～14:00

2020年8月26日（水）9:00～12:00

場所：オンライン（Zoom リンクは参加申し込みいただいた方にメールで送付します）

## プログラム (案)

・セッション1 (2020年8月18日 9:00~12:00) (Zoom)

座長 椿広計 (統計数理研究所)

### 開会のあいさつ

統計数理研究所 椿広計 所長

横浜市立大学データサイエンス学部 佐藤彰洋

#### 1. 佐藤彰洋 (横浜市立大学データサイエンス学部) 「人流メッシュ統計の利活用方法」

人流メッシュ統計を利用したデータ利活用の方法について紹介する。MESHSTATS の WebAPI を使ったメッシュ統計の利用方法を紹介するとともにメッシュ統計を使った分析可視化の方式とその結果を紹介する。

#### 2. 岩崎 学 (横浜市立大学データサイエンス学部) 「データは語る, 語らせる」

統計的データ解析では、「データに語らせる」ということがあります。これは調査につながる現状把握のステージです。さらに進んで、予測や制御のためには、データがうまく語るよう仕向ける必要があります。どのようにして予測や制御につなげるかを、統計的因果推論の立場から論じます。

#### 3. 西脇 毅 (国立大学法人 大分大学) 「MESHSTATS を用いた産業化支援の事例 ~竹由来セルロースナノファイバーの起業化に際して~」

大分大学では竹を従来の用途ではなく全く新しい使い道である”竹由来セルロースナノファイバー”の製造および利用する研究を4年前からスタートしている。竹由来セルロースナノファイバーの製造を行うにあたり、竹林の把握や斜面、竹林周辺の人口・労働者などのデータを把握しておく必要がある。当発表では、日本でも竹が豊富にあると分かっている上位5県の森林(竹林)および斜面、周辺人口・労働者などを MESH STATs を用いて把握・分析した結果を発表する。

#### 4. 石田 中 (宇宙航空研究開発機構 JAXA) 「SDGs への地球観測データの活用について」

SDGs 指標算出への地球観測衛星データの適用事例を中心に、SDGs における地球観測データの役割と可能性について講演する。

・セッション2 (2020年8月24日 13:00~14:00) (Zoom)

座長 佐藤彰洋 (横浜市立大学)

5. 榎田 直木 (滋賀大学 DS 学部)「コロナ禍時代の科学リテラシー ビッグデータの品質(仮)」  
新型コロナウイルス感染対策の一つとして「外出の自粛の協力要請」が出された中で、いわゆる人流データがニュースの見出しを飾った。このデータ、果たしてどの程度「使ってよい」ものなのだろうか。この報告では、いくつかの人流データの公開されている一次情報を訪ねることにより、ビッグデータの品質について検討してみる。

6. 熊田 順一 (㈱JTB 総合研究所)「SDGs 達成に貢献するサステナブル・ツーリズムを形づくる指標・データの考察」

観光を通じた SDGs (持続可能な開発目標) の達成への取り組み (サステナブル・ツーリズムの推進) とそれを計測する指標・データについて考察する。

7. 佐藤彰洋 (横浜市立大学データサイエンス学部)「世界メッシュコード研究会の本年度の活動計画」

本年度の世界メッシュコード研究会の活動計画について紹介するとともに、本年度申請を行った研究計画について述べる。

・世界メッシュ統計のアイデアソン1 (90分)

参加型デザインワークショップ (ブレインストーミング) 世界メッシュ統計を用いたデータ利活用方法に関するアイデアソンを MURAL を使ってオンラインで開催します。

・セッション3 (2020年8月26日 9:00~12:00) (Zoom)

座長 熊田順一 (株式会社JTB総合研究所)

8. 加藤茂博 (株式会社リクルートキャリア) 「MESHSTATSの人材領域への応用」

MESHSTATSのデータを活用した人流及び人材需要の偏在性に着目した分析結果について報告する。その応用としての産業支援や日本の産業全体の人材最適について考える。

9. 大坪一希 (京都市総合企画局情報化推進室統計解析担当) 「京都市のオープンデータへの取組」

京都市オープンデータポータルサイトは2016年11月30日の開設から4年目となりました。この間、データセット及びデータリソース数は約1.8倍と、順調に増加しています。しかし、機械判読可能なフォーマットとなっていないデータが多く、メッシュ統計に利用できる位置情報を含むデータも不足しているなど、課題も多々あります。今回、京都市の抱える現状と課題、それに対する取組状況について御報告いたします。

10. 斧田佳純 (株式会社ドコモ・インサイトマーケティング) 「メッシュ化された人流データ「モバイル空間統計」の活用可能性」

ドコモの携帯電話ネットワークのしくみを使用して作成される人口の統計情報「モバイル空間統計」の概要および活用事例のご紹介。

・世界メッシュ統計のアイデアソン2 (90分)

参加型デザインワークショップ (掛け合わせ) 世界メッシュ統計を用いたデータ利活用方法に関するアイデアソンをMURALを使ってオンラインで開催します。

閉会のあいさつ

統計数理研究所 椿広計所長

横浜市立大学データサイエンス学部 佐藤彰洋

お問い合わせ先

佐藤彰洋 横浜市立大学横浜市立大学大学院国際総合科学群データサイエンス学部教授

連絡先 [ahsato@yokohama-cu.ac.jp](mailto:ahsato@yokohama-cu.ac.jp)

世界メッシュ研究所おしらせ HP URL <https://www.fttsus.jp/worldgrids/>